

和泉市
久保惣記念
美術館
(和泉市)

みゅ〜
ザ・見遊じあむ

66



ミュージアムメモ

▶所在地/大阪府和泉市内田町3-6-12 ▶交通/泉北高速鉄道「和泉中央」駅より南海バスで約10分 ▶開館時間/午前10時〜午後5時(入館は4時30分まで) ▶休館日/月曜日(祝日の場合は開館し、翌日火曜日を休館)、年末年始 ▶入場料/常設展・一般500円、高・大学生300円、中学生以下無料。特別展は企画によって異なります ▶連絡先/電話0725-54-0001



鑑賞の合間に庭園散策もできます

日本庭園、茶室も備えた
東洋古美術のミュージアム

と建物を和泉市に寄附し、1982年に市立美術館として開館しました。寄贈された約500点の美術品には国宝2点、重要文化財28点が含まれています。開館後は全国の個人蒐集家からの寄贈も加わり、現在の収

を対象に、陶芸、油絵、日本画、七宝焼、写真などの創作教室も開いており、ギャラリーで作品の展示会も随時催されています。

日本や中国を主とした東洋古美術を専門とする美術館です。敷地内には日本庭園や、茶室、音楽ホールもあり、落ち着いた佇まいの空間が広がります。和泉市を拠点に錦織物業を営んでいた久保惣株式会社と久保家が、自ら蒐集していた美術品や、所有していた敷地

蔵品は約1万1000点のほります。宮本武蔵が描いたと言われる名画「枯木鳴鶴図」(こぼくめいげきず)も収蔵されており、毎年春に一般公開されます。展示品を鑑賞する合間に庭園や茶室も散策でき、ゆったりとした気分で見学ができます。美術館では、市民

「英国王のスピーチ」



吃音症の克服への闘い

今年の第84回アカデミー賞で、この映画は作品賞、監督賞、脚本賞、主演のコリン・ファースは主演男優賞と4部門を受賞しました。題名の英国王とはジョージ6世(アルバート王子)のことで、現エリザベス女王の父君。アルバート王子は幼少の頃からひどい吃音症でした。洋の東西を問わず、皇族の公用としての大きな仕事に各種行事での祝辞やあいさつがあります。吃音症はこの点でたいへんなストレスや苦痛を伴うことはまちがいありません。映画は簡

単に言えばこの吃音症を克服するというドラマ仕立てですが、それだけにとどまらず、日本とは趣の違う皇室の様子が描かれています。ジョージ6世がアルバート王子の時代の1925年、大英帝国博覧会の閉会式で、国王の代理としてスピーチを行います。ひどい吃音症のため、国民も王子の演説に落胆してしまいます。そこで吃音症の克服のために訪ねたのが言語聴覚士のライオネル・ローグ。皇族だからといっても特別扱いせず容赦のないローグの療法とその訓練の描写がよくできています。アルバート王子の兄のエドワード3世が退位したため、アルバート王子が王位を継ぎジョージ6世に。時代はドイツとの戦争に突入り、国王のジョージ6世は大英帝国全土に向けて国民を鼓舞する演説のために、ラジオの生放送でマイクに向かいます。吃音症の克服はできるのでしょうか。この映画は事実にもとづいて

このシネマ

ガレージ

大阪の戦跡を歩く

第65歩



平和の祈り像 (大阪市西区)

第二次大戦中、大阪市西区関係で戦死した兵士約600人を祀っています。戦後、奇跡的に生還した青年が「戦没者の慰霊のために」と像の建設を提案し、1957年(昭和32年)に大阪市西区遺族会の手によって建てられました。

女神と子どもの像で、台座正面には「祈」の文字が、裏には「我等かかる国々のあらいはこれを終わりとし、永劫の平和を祈ってこの像を立つ」と記されています。像は、土佐稲荷神社に隣接する公園にあります。

撰津

河内 和泉

おおさか 三國誌

66

(茨木市)

隠れキリシタンとザビエルの肖像画
弾圧の中で、深く密かに
信仰を守りぬいた人々

日本に初めてキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルの肖像画は、学校の教科書で目にした人も多いでしょう。しかし、この肖像画が発見されたのは20世紀に入ってからで、発見場所が大阪府茨木市の山里の民家であったことを知る人は少ないのではないのでしょうか。茨木市北部の山地は数百年も続いた「隠れキリシタン」の里だったので。戦国時代、現在の高槻、茨木市域を領地にしていたキリシタン大名・高山右近(1553〜1615)は領内に次々と教会を建設し、その影響で6割近い領民がキリシタン化したと言われています。ところが豊臣秀吉がキリスト教の布教を禁止し、徳川家康がキリシタン禁教令を發布してから信者への弾圧は苛烈をきわめ、1830年(文政13年)に6人の信者が処刑されたのを最後に、キリシ



1620年頃に狩野派の画家が描いたといわれ、泥絵具、鶏卵の黄味、ニカワで色彩されています

タンは絶滅したとされています。ところが1919年(大正8年)に、茨木市の千堤寺(せんだいじ)の近くで「上野マリア」という名の刻まれた墓碑が発見されたことを契機に、その後もこの地域ではキリシタンの信仰が守られ続けていたことが明らかになりました。民家の屋根裏や土蔵の奥深くから、ザビエルの肖像画やキリスト磔刑木像など多く遺物が発見されました。人々は仏教に帰依したかのようにみせかけながら、深く密かにキリスト教への信仰を継承していたのです。この事実に感嘆したローマ教皇庁は、1926年(大正15年)に祝福の使節を茨木に派遣しました。

落下の雪に踏み迷う

交野の春の桜狩り

作者不詳(太平記)

「太平記」は南北朝の争乱について記した軍記物語。作者は不明ですが、1371年(建徳2年)頃に小島法師が記したとも言われています。この歌は、後醍醐天皇の意をうけた倒幕計画が露見して幕府に捕縛され、鎌倉に護送される日野俊基が死の旅に向かう心情を吐露したものです。歌にある「交野」とは現在の交野市のことで、当時から桜の名所として知られていました。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

いのち燃ゆ わがいのち燃ゆ

わが友ら 幾百万のいのちひた燃ゆ

黒田 一

今年2011年3月16日は、元大阪府知事・憲法学者・黒田一さん(1911〜2002)の生誕100年の日です。1971年の大阪府知事選挙で革新知事として初当選。その後、2期8年にわたって、公害対策、老人医療費の無料化、府立高校増設など府民のための府政を進めました。歌人知事としても有名で、多くの歌、川柳も残しています。